

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(2022.02.03)

文・写真：武田

日時：2022(令和4)年 2月 3日(木) 9:30~15:00

気象：晴(気温 4~5℃)

活動エリア：45 林班ろ-04

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

参加者(会員)：猪川 誠、内海宏一、斧田一陽、倉谷邦雄、黒山泰弘、竹歳三喜子、武田壽夫、中村賢三、
宮本廣、山田真也 会員 10 名

< 交付金事業災害発生状況の情報共有 >

◆事務局長から他団体での最近の作業中事故事例の紹介と改めての注意喚起。さともり協議会事務局からも改めて、「倒木やかかり木の処理時におけるチルホール等の取付位置が不適切な場合、切断部の跳ね返りなどに巻き込まれる危険があるので、処理器具使用の際は十分注意を」とのアラームが届いている。



事例①梢端部が地面に刺さった倒木(伐根径 32 cmの広葉樹)の根本部を切断したが、チルホールでも動かず梢端部の切断を試みたがチェーンソーが挟まった為、被災者が別のチェーンソーで切断した処、チルホールのワイヤー取付部を支点に根元が回転し3名が下敷きに。内1名は脱出出来ず救急に連絡。ヘリで倒木を吊り上げ被災者を救出、移送先の病院で緊急手術。(背骨破裂骨折による脊髄損傷)

事例②伐倒木(ヒノキ、樹高約 20 m、胸高直径 24 cm)の玉切り作業中、材が跳ねて被災者の左足に激突、左足が伐倒木本体の下敷きに。簡易の担架で作業路まで引き上げ(標高差約 30 m)、病院に搬送。(左足脛骨骨折)

事例③(ハチ刺され2件) 9月には立ち枯れ木伐採時、複数のスズメバチに囲まれ、離脱中肩や背中、脛脛など全身7か所を刺された。直ぐに救出され建物へ移動。ポイズンリムーバーで毒を吸い出した後、病院で受診し治療。10月はオオスズメバチ。チェーンソーでの伐採集積作業中、腕や背中等を10箇所以上刺され駐車所へ歩行移動、救急車で市内の病院へ搬送され入院治療。

◆上記は「他山の石」、頭に刻み込み、今日も45林班ろ-04の整備範囲拡張へ向かう。今日は節分、暮々も怪我には注意肝要。

< 今日の結果 >

写真の通り、整備を尾根上部に進める程傾斜はきつくなり。安定した足場の確保に苦労し乍らの作業。それでも0.15haはスッキリさせた(つもり)。

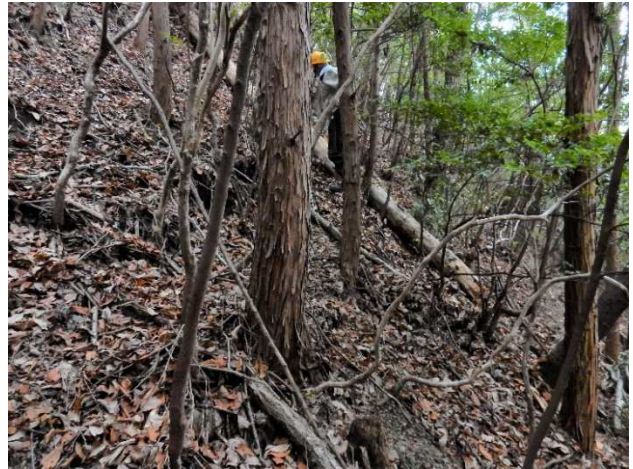
<写真編>

(活動地は 1/16 に隣接するので要図の掲載は省略)

【作業前の山腹－左は間伐した計りの広葉樹】



【この通りの傾斜地での作業】



【倒れた儘の枯損木を玉切り中】



【以下、整備後の3景】



【小さな溪がスッキリ】



【左に同じ(下部と上部の傾斜の違いが分る)】

